

CELSIUS

Workstation Series

CELSIUS J340

B6FH-6561-01

取扱説明書

このたびは弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書では次の項目を説明しています。

本書をお読みになる前に	3
1. 必ずお読みください	14
ワークステーションの疲れにくい使い方	14
使用上のお願い	14
設置について	14
接続について	17
電源を入れる	20
セットアップ	22
電源を切る	24
2. 必要に応じてお読みください	25
BIOS の設定をご購入時の状態に戻す	25
エラーについて	25
リカバリ概要	27
リカバリ操作	28
お問い合わせ先	30
リサイクルについて	31

マニュアルのご紹介

■添付の紙マニュアル

『添付品一覧』



添付の機器、マニュアル、CD などの一覧です。
ご購入後、すぐに、添付品が揃っているか確認してください。欠品などがあった場合は、できるだけ早くご購入元にご連絡ください。

『取扱説明書』（本書）



使用上のご注意、ワークステーションを使うための準備、ご購入時の状態に戻す方法などを説明しています。

■インターネット上のマニュアル

CELSIUS マニュアル <http://www.fmworld.net/biz/celsius/manual/>

本ワークステーションのマニュアルは、インターネットでご覧いただけます！ 富士通パソコン情報サイト「FMWORLD.NET」内にある、CELSIUS マニュアルのページ（上記 URL）をご覧ください。

●マニュアルの見方

上記の URL を入力

お使いの機種を選択

ご覧になりたいマニュアルのボタンをクリック

HTML形式 ボタン：HTML 形式で表示

PDF形式 ボタン：PDF 形式で表示

□本体のマニュアル『CELSIUS マニュアル』 **HTML形式**

ワークステーション本体のマニュアルです。
機器の取り付け、ソフトウェア、トラブルシューティングなど、ワークステーションの使い方について説明しています。
『ハードウェアガイド』（PDF）、『ソフトウェアガイド』（PDF）の内容がこれ 1 つでご覧いただけます。



□カスタムメイドオプションのマニュアル

カスタムメイドで選択した機器などをお使いになる際に必要な内容が記載されています。
該当するマニュアルをご覧ください。

HTML形式

PDF形式

●「スタート」ボタンからも操作できます！

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「CELSIUSマニュアル」の順にクリックしてもご覧いただけます。



目的に合わせてお読みください

（■：添付の紙マニュアル、□：インターネット上のマニュアル）

- ・箱の中身を確認する..... ■添付品一覧（紙）
- ・ワークステーションを使うための準備をする... ■取扱説明書（冊子）の「1.必ずお読みください」
- ・各部の名称や取り扱い方を調べる..... □CELSIUSマニュアル（HTML）、または□ハードウェアガイド（PDF）の「各部名称」
- ・周辺機器の取り付け方を調べる..... □CELSIUSマニュアル（HTML）、または□ハードウェアガイド（PDF）の「ハードウェア増設」
- ・添付のソフトウェアについて調べる..... □CELSIUSマニュアル（HTML）、または□ソフトウェアガイド（PDF）の「ソフトウェア」
- ・セキュリティ対策について調べる..... □CELSIUSマニュアル（HTML）、または□ソフトウェアガイド（PDF）の「セキュリティ」
- ・トラブルの解決方法を調べる..... □CELSIUSマニュアル（HTML）、または□ソフトウェアガイド（PDF）の「トラブルシューティング」
□FMWORLD.NET内の「CELSIUSをお使いになる上での注意事項」（CELSIUSマニュアルのページからもご覧いただけます。）
- ・仕様を調べる..... □CELSIUSマニュアル（HTML）、または□ハードウェアガイド（PDF）の「技術情報」
- ・購入時の状態に戻す..... ■取扱説明書（冊子）の「リカバリ概要」「リカバリ操作」

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。
本製品をお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。
また、このマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書について

- ・保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- ・修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
- ・保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- ・保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
- ・修理後は、本製品の内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、フロッピーディスクなどに複製して、保管しておいてください。
- ・本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の保有期間は、製造終了後5年です。

使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本製品にインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。
なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

1. 本ソフトウェアの使用および著作権
お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本製品でのみ使用できます。なお、お客様は本製品のご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
2. バックアップ
お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。
3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み
本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
4. 複製
(1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。
本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。
ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。
(2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。
5. 第三者への譲渡
お客様が本ソフトウェア（本製品に添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたワークステーションとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本製品に添付されている媒体を本製品とは別に第三者へ譲渡することはできません。
6. 改造等
お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。
7. 保証の範囲
(1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本製品をご購入いただいた日から90日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。
また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本製品をご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
(2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知られていた場合も同様とします。
(3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記（1）の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。
8. ハイセイフティ
本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

記

原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

保守修理サービスのご案内

弊社では、保守修理サービスとして、以下の「SupportDesk」を用意しております。
お客様のご希望、ご利用状況に合わせたサービスをお選びの上、「富士通 パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元にお申し込みください。

■ SupportDesk

ハード障害発生時の修理を行う「Product基本／基本24」に加え、お客様のご要望に応じて2つのオプションメニューをご用意しております。また、価格面でもよりお得な「SupportDeskバック」もございます。

- ・ Product 基本／基本 24：オンサイト修理、情報提供
専用窓口をご用意し、障害発生時のスムーズな受付を行います。
受付は「基本」：月曜日～金曜日の8:30～19:00（祝日、年末年始を除く）、[基本 24]：24 時間 365 日
受付後、専任スタッフがお客様先に訪問し、速やかに修理を行います。
障害対応履歴については、お客様専用ホームページにてご確認頂けます。
- ・ PC ソフトサポート（オプション）：ソフト QA 対応
ワークステーションのブレインストールソフトウェアについて QA 対応を行います。
- ・ PC 定期点検（オプション）：定期点検
定期的に次のような予防保守を行います。
 - 点検、整備、摩耗部品交換（消耗品は対象外）
 - 清掃、調整等
- ・ SupportDeskバック：オンサイト修理
保証期間分の割引価格をあらかじめ想定したお得な修理サービスのバック商品です。（各3、4、5年バック）
商品添付の「お客様登録票」を発送するだけで、すぐにサービススタートが可能です。

マイクロソフト製品サービスパック

Microsoft® Windows® をご利用のお客様がより安定したシステムを運用していく上で、マイクロソフト社はサービスパックを提供しております（<http://www.microsoft.com/japan/>）。

お客様は、最新のサービスパックをご利用いただくことにより、その時点でマイクロソフト社が提供する Microsoft® Windows® にて最も安定したシステムを構築できます。

したがって、当社としては、最新のサービスパックをご利用いただくことを基本的には推奨いたします。
ただし、お客様の環境によっては、サービスパック適用により予期せぬ不具合が発生する場合がありますので、ご利用前にはサービスパックの「Readme.txt」を必ずご確認ください。

また、万一、インストールに失敗したことを考慮し、システムのバックアップを取ることを推奨いたします。

データのバックアップについて

本製品に記録されたデータ（基本ソフト、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。データが失われた場合でも、保証書の記載事項以外は、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください。

添付の CD-ROM などは大切に保管してください

これらのディスクは、本製品に入っているソフトウェアをご購入時と同じ状態に戻すときに必要です。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。

お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。

ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

- ・ 原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

注 意

本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。本製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

- ・ 本製品には、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスクなど）が含まれています。
有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、1 日約 8 時間のご使用で約 5 年です。なお、この期間はあくまでも目安であり、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。
長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期に部品交換が必要となる場合があります。

製品に使用しているアルミ電解コンデンサは、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因となる場合がありますので、早期の交換をお勧めします。

部品の交換は、当社の定める補修用性能部品単位での修理による交換となります。
（バッテリーパックや乾電池等の消耗品は、お客様ご自身で新品を購入し、交換していただきます。）

- ・ 本製品は、24 時間以上の連続使用を前提とした設計にはなっていません。

本製品の使用環境は、温度 10 ～ 35 ℃／湿度 20 ～ 80%RH（動作時）、温度 -10 ～ 60 ℃／湿度 20 ～ 80%RH（非動作時）です（ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）。

本製品は、国内での使用を前提に作られています。海外での使用につきましては、お客様の責任で行っていただくようお願いいたします。

本製品は日本国内仕様であり、海外での保守サービスおよび技術サポートは行っていません。

本製品には、“外国為替及び外国貿易法”に基づく特定貨物が含まれています。したがって、本製品を輸出する場合には、同法に基づく許可が必要となる場合があります。

本製品は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。
(社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

本製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品です。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



本製品の構成部品（プリント基板、CD/DVD ドライブ、ハードディスクなど）には、微量の重金属（鉛、クロム）や化学物質（アンチモン、シアン）が含まれています。

エネルギー消費のお知らせ

■ 定格電流：最大 7A(アウトレット最大 3A を含む)

■ 電源 OFF 時の消費電力：3W 以下^注

(電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、メインスイッチを「○」側に切り替えるか、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください)

■ 動作時の最大消費電力、通常消費電力

・ 最大消費電力：約 235W

・ 通常消費電力：

『CELSIUS マニュアル』の「技術情報」－「仕様一覧」をご覧ください。

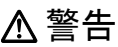
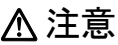
注：ディスプレイの電源をアウトレットから供給しない場合の電力値です。

高性能無停電電源装置のバッテリー

電源の投入／切断時間にかかわらず約 2 年経過すると交換時期となりますが、周囲温度により、バッテリー寿命が短縮されることがあります。詳細につきましては、高性能無停電電源装置の取扱説明書をご覧ください。

警告表示について

このマニュアルでは、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

安全上のご注意

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、必ずお読みになり、正しく安全に、大切に取り扱ってください。

また、本製品をお使いになるときは、マニュアルをよくお読みになり、正しくお使いください。

■異常や故障のとき

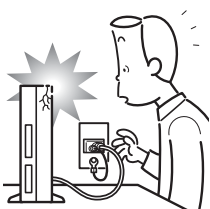
警告



ワークステーション本体の内部に水などの液体や金属片などの異物が入った場合は、すぐにワークステーション本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

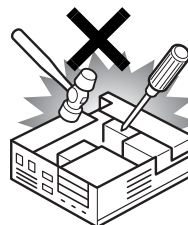
その後、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。



本製品を落としたり、カバーなどを破損したときは、ワークステーション本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

その後、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。



本製品をお客様ご自身で改造しないでください。また、マニュアル等で指示がある場合を除いて分解しないでください。

感電・火災の原因となります。

修理や点検などが必要な場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

注意

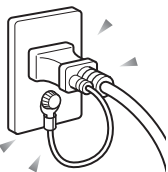


液晶ディスプレイが破損し、液状の内容物が流出して皮膚に付着した場合は、流水で15分以上洗浄してください。また、目に入った場合は、流水で15分以上洗浄したあと、医師に相談してください。中毒を起こすおそれがあります。

液晶ディスプレイの内部には、刺激性物質が含まれています。

■設置されるとき

⚠ 警告



電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線をコンセントのアースネジへ接続してください。

安全のため、電源プラグにはアース線がついています。アース

接続しないで使用すると、万一漏電した場合に、感電の原因となります。

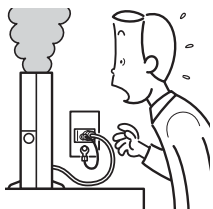
アースネジ付のコンセントが利用できない場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご相談ください。

電源コードを抜くときは、先に電源プラグを抜いてからアース線を外してください。



アース線はガス管には絶対に接続しないでください。

火災の原因となります。



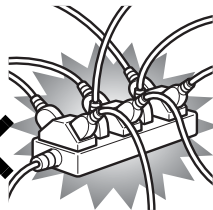
本製品は主電源コンセントの近くに設置し、遮断装置（電源プラグ）へ容易に手が届くようにしてください。

万一、機器から発熱や煙、異臭や異音がするなどの

異常が発生したときは、ただちに機器本体の電源プラグをコンセントから抜いてください。

その後、異常な現象がなくなるのを確認して、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。

異常状態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。



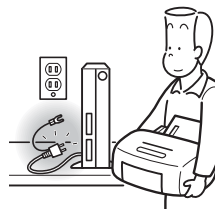
電源プラグは、壁のコンセント（AC100V）に直接かつ確実に接続してください。また、タコ足配線をしないでください。

感電・火災の原因となります。



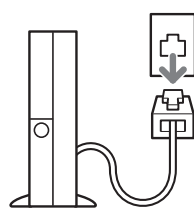
添付もしくは指定された以外のACアダプタや電源ケーブルを本製品に使ったり、本製品に添付のACアダプタや電源ケーブルを他の製品に使ったりしないでください。

感電・火災の原因となります。



周辺機器の取り付けや取り外しを行うときは、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。

この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。



メモリの取り付けや取り外しを行うときなど、本体カバーをあける場合は、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜い

たあと、しばらく経ってから本体カバーを開けてください。また、電話回線からモジュラーケーブルが接続されている場合、モジュラーケーブルも取り外してください。電話回線から着信があった場合、または落雷が起きた場合に感電の原因となります。



周辺機器のケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、ワークステーション本体および周辺機器が故障する原因となります。



取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。

誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。



梱包に使用している袋類は、お子様の手の届か

ないところに置かないでください。口に入れたり、頭にかぶったりすると、窒息の原因となります。



本製品を風呂場やシャワー室など、水のかかるおそれのある場所で使用したり、置いたりしないでください。

感電・火災の原因となります。



本製品を風通しの悪い場所、火気のある場所、引火性ガスの発生する場所で使用したり、置いたりしないでください。

火災の原因となります。



振動している場所や傾いたところなどの不安定な場所に置かないでください。

本製品が倒れたり、落下して、けがの原因となります。

⚠ 注意



指定外の機器をワークステーション本体に接続して電源を取らないでください。

火災・故障の原因となることがあります。



周辺機器などの取り付け、取り外しを行う際は、指定された場所以外のネジは外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



本製品を調理台や加湿器のそば、ほこりの多い場所などで使用したり、置いたりしないでください。

感電・火災の原因となることがあります。



本製品を直射日光があたる場所、閉めきった自動車内、ストーブのような暖房器具のそばで使用したり、置いたりしないでください。

感電・火災の原因となることがあります。また、破損や故障の原因となることがあります。

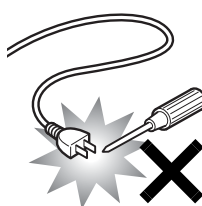


本製品を移動する場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続ケーブルなども外してください。作業は足元に十分注意して行ってください。

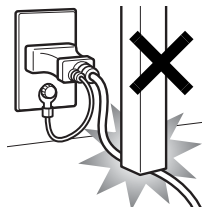
電源ケーブルが傷つき、感電・火災の原因となったり、本製品が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■ご使用になるとき

⚠ 警告



ACアダプタの電源プラグに、ドライバーなどの金属を近づけないでください。火災・感電の原因となります。



電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。

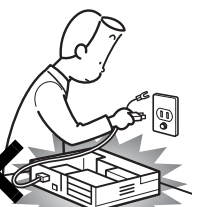
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、感電・火災の原因となります。

修理は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。



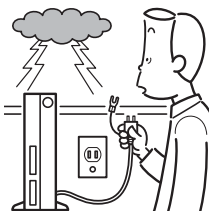
ACアダプタの本体やケーブル、電源コード、電源プラグが傷いている場合は使用しないでください。

感電・火災の原因となります。



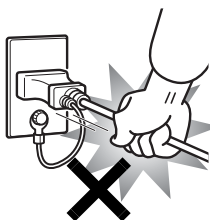
本体カバーを外した状態で電源プラグをコンセントに差し込んだり、電源を入れたりしないでください。

感電・火災の原因となります。



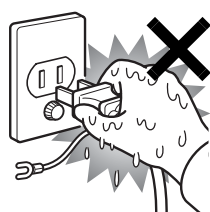
近くで落雷のおそれがある場合は、ワークステーション本体の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、雷が止むまで取り付けしないでください。

そのまま使用すると、落雷による感電・火災の原因となります。



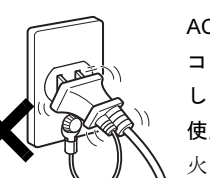
電源プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したり

して、感電・火災の原因となることがあります。



濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。



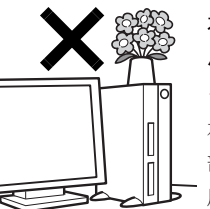
ACアダプタや電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込み、不完全な接続状態で使用しないでください。

火災・故障の原因となることがあります。

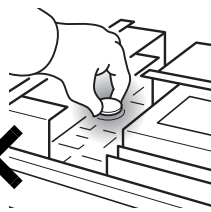


開口部（通風孔など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。

感電・火災の原因となります。



本製品の上や周りに、花瓶・コップなど液体の入ったものを置かないでください。水などの液体が本製品の内部に入って、感電・火災の原因となります。

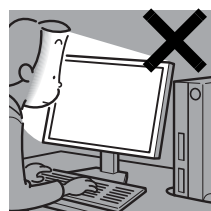


本ワークステーションの内部に搭載されているリチウム電池には触らないでください。

取り扱いを誤ると、人体に影響を及ぼすおそれがあります。

ります。

リチウム電池はご自身で交換せずに、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご相談ください。



本製品をご使用になる場合には、部屋を明るくして、画面からできるだけ離れてください。

お使いになる方の体質や体調によっては、強い光の刺激を受けたり、点滅の繰

り返しによって一時的な筋肉のけいれんや意識の喪失などの症状を起こす場合がありますので、ご注意ください。

過去にこのような症状を起こしたことがある場合は、事前に医師に相談してください。

また、本製品をご使用中にこのような症状を発症した場合には、すぐに本製品の使用を中止し、医師の診断を受けてください。



ワークステーション本体やACアダプタの温度が高くなる場所に長時間直接触れて使用しないでください。

低温やけどの原因になります。

⚠ 注意



電源ケーブルを束ねた状態で使用しないでください。

発熱して、火災の原因となることがあります。



本製品の上に重いものを置かないでください。故障・けがの原因となります。



フロッピーディスクやCD/DVD、PCカードなどのトレイやスロット、モデムやLANのコネクタなど、本製品の開口部に、手や指を入れないでください。

けが・感電の原因となることがあります。



ワークステーション本体内部の突起物、および指定されたスイッチ以外には、手を触れないでください。

けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



使用中のワークステーション本体やACアダプタを布などでおおったり、包んだりしないでください。設置の際はワークステーション本体と壁の間に10cm以上のすき間をあげ、通気孔などの開口部をふさがないようにください。また、通気孔が目詰まりしないように、掃除機などで定期的にほこりを取ってください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



ヘッドホンやイヤホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないでください。

耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。



電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。また、ヘッドホンやイヤホンをしたまま、電源を入れたり切ったりしないでください。

突然大きな音や刺激音が出て、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。



本製品をお使いになる場合は、次のことに注意し、長時間使い続けるときは1時間に10～15分の休憩時間や休憩時間の間の小休止を取るようにしてください。

本製品を長時間使い続けると、目の疲れや首・肩・腰の痛みなどを感じる原因となることがあります。画面を長時間見続けると、「近視」「ドライアイ」等の目の傷害の原因となることがあります。

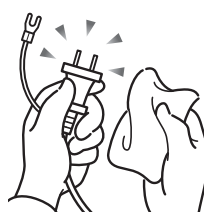
- ・画面の位置や角度、明るさなどを見やすいように調節する。
- ・なるべく画面を下向きに見るように調整し、意識的にまばたきをする。場合によっては目薬をさす。
- ・背もたれのあるいすに深く腰かけ、背筋を伸ばす。
- ・いすの高さを、足の裏全体がつく高さに調節する。
- ・手首や腕、ひじは机やいすのひじかけなどで支えるようにする。
- ・キーボードやマウスは、ひじの角度が90度以上になるように使用する。



本製品を長期間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

■お手入れについて

⚠ 警告



ACアダプタや電源プラグはコンセントから定期的に抜いて、コンセントとの接続部分のほこりやゴミを乾いた布でよくふき取ってください。

ほこりがたまったままの状態で使用すると感電・火災の原因となります。

■レーザーの安全性について

□CD/DVD ドライブの注意

本製品に搭載されているCD/DVDドライブは、レーザーを使用しています。

□クラス1 レーザー製品

CD/DVDドライブは、クラス1レーザー製品について規定している米国の保健福祉省連邦規則（DHHS 21 CFR）Subchapter Jに準拠しています。

また、クラス1レーザー製品の国際規格である（IEC 60825-1）、CENELEC規格（EN 60825-1）および、JIS規格（JISC6802）に準拠しています。

⚠ 警告



本製品は、レーザー光線を装置カバーで遮断する安全な構造になっていますが、次のことにご注意ください。

- ・光源部を見ないでください。
CD/DVDドライブのレーザー光の光源部を直接見ないでください。
また、万一の故障で装置カバーが破損してレーザー光線が装置外にもれた場合は、レーザー光線を覗きこまないでください。
レーザー光線が直接目に照射されると、視力障害の原因となります。
- ・お客様自身で分解したり、修理・改造しないでください。
レーザー光線が装置外にもれて目に照射されると、視力障害の原因となります。

■その他

注意



.....

本製品（付属品を含む）の廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。

本製品は「廃棄物の処理および清掃に関する法律」の規制を受けます。

本製品はリチウム電池を使用しており、火中に投げると破裂のおそれがあります。

.....

本書の表記

■電源プラグとコンセント形状の表記について

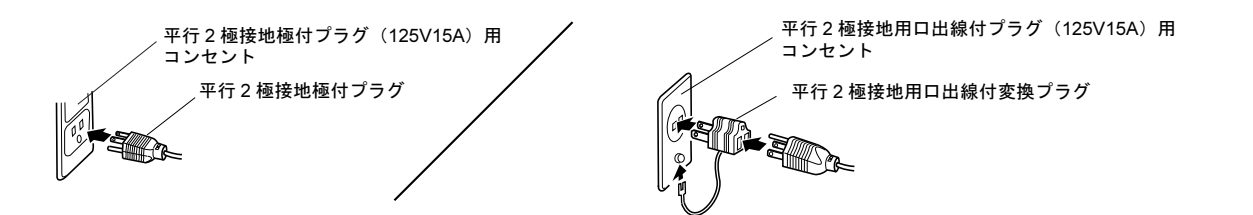
本ワークステーションに添付されている電源ケーブルの電源プラグは「平行2極接地極付プラグ」です。接続先のコンセントには「平行2極接地極付プラグ（125V15A）用コンセント」または「平行2極接地用口出線付プラグ（125V15A）用コンセント」をご利用ください。

「平行2極接地用口出線付プラグ（125V15A）用コンセント」をご利用の場合は、添付の「平行2極接地用口出線付変換プラグ（2P変換プラグ）」を取り付けてください。

※「接地用口出線」とはアース線、「接地極」とはアース部分のことです。

本文中では、次のように略して表記します。

名称	本文中の表記
平行2極接地極付プラグ	電源プラグ
平行2極接地極付プラグ（125V15A）用コンセント	コンセント
平行2極接地用口出線付プラグ（125V15A）用コンセント	2 ピンのコンセント
平行2極接地用口出線付変換プラグ	2P 変換プラグ



■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

- 例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど
- また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。
- 例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

- ```
diskcopy a: a:
 ↑ ↑
```
- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
  - また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
  - CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。
- 例：[CD-ROM ドライブ]:¥setup.exe

## ■連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作



「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

## ■BIOS 設定の表記

本文中のBIOS設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「－」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。

例：「Power」メニューの「ACPI Sleep Mode」の項目を「S1」に設定します。



「Power」－「ACPI Sleep Mode」：S1

## ■画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

## ■カスタムメイドオプションについて

本文中の説明は、すべて標準仕様に基づいて記載されています。

そのため、カスタムメイドで選択のオプションを取り付けている場合、メモリ容量やハードディスク容量などの記載が異なります。ご了承ください。

## ■製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

| 製品名称                                                   | 本文中の表記                  |            |         |
|--------------------------------------------------------|-------------------------|------------|---------|
| CELSIUS J340                                           | 本ワークステーション／ワークステーション本体  |            |         |
| Microsoft® Windows® XP Professional                    | Windows XP Professional | Windows XP | Windows |
| ATI RADEON™ X300 SE PCI-Express 64MB DDR DVI-I ATX     | RADEON X300 SE          |            |         |
| ATI FireGL™ 5000 PCI-Express 128MB DDR DVI-I/DVI-I ATX | FireGL V5000            |            |         |
| Sonic RecordNow!                                       | RecordNow               |            |         |

## ■お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先やインターネットの URL アドレスは 2005 年 8 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください（→ P.30）。

## 警告ラベル／注意ラベル

本製品には警告ラベルおよび注意ラベルが貼ってあります。

警告ラベルや注意ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

## 商標および著作権について

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。  
Intel および Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。  
ATI、RADEON、FireGL は ATI Technologies Inc. の登録商標です。  
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。  
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2005  
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

# 1. 必ずお読みください

## ワークステーションの疲れにくい使い方

ワークステーション作業を続けていると、目が疲れ、首や肩が痛くなり、腰が痛くなることがあります。その主な原因は、長い時間同じ姿勢でいることや、近い距離で画面やキーボードを見続けることです。ワークステーションをお使いの際は疲労に注意し、適切な環境で作業してください。

- ブラインドやカーテンで、外光が直接目に入ったり画面に映り込んだりしないようにする。
- 目は画面から 40cm 以上離し、画面の高さは水平より下になるようにする。
- 作業中は、1 時間に 10 分～15 分程度の休憩をとる。
- 肘かけや背もたれのついた椅子を使用し、座面の高さを調節する。
- ワークステーションの周りや足元には、十分なスペースを確保する。

ワークステーションをお使いになるときの姿勢や環境について、さらに詳しい説明が『CELSIUS マニュアル』の「ハードウェア」－「ワークステーションの疲れにくい使い方」に記載されています。あわせてご覧ください。

### POINT

- ▶ 富士通では、独立行政法人産業医学総合研究所の研究に協力し、その成果が「パソコン利用のアクション・チェックポイント」としてまとめられています。詳しくは、富士通ホームページ (<http://design.fujitsu.com/jp/universal/ergo/vdt/>) の解説をご覧ください。

## 使用上のお願い

- 周辺機器は、弊社純正品をお使いください。
- 本製品は昼夜連続動作（24 時間動作）を目的に設計されていません。ご使用にならないときは電源を切ってください。

## 設置について

本ワークステーションの設置場所、設置方法を説明します。

### ⚠ 注意



- 使用中のワークステーション本体を布などでおおったり、包んだりしないでください。設置の際はワークステーション本体と壁の間に 10cm 以上のすき間をあげ、通気孔などの開口部をふさがないようにしてください。また、通気孔が目詰まりしないように、掃除機などで定期的にはこりを取ってください。  
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

## 使用および設置に適さない場所

- 湿気やほこり、油煙の多い場所
- 通気性の悪い場所
- 火気のある場所
- 風呂場、シャワー室などの水のかかる場所
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温になる場所
- 極端に高温または低温になる場所
- 電源ケーブルなどのケーブルが足にひっかかる場所
- テレビやスピーカーの近くなど、強い磁界が発生する場所
- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所
- 車、飛行機、船など、輸送機器への設置
- 腐食性ガス（温泉から出る硫黄ガスなど）が出る場所
- 結露する場所

### POINT

- ▶ 本製品の使用環境は温度 10～35℃／湿度 20～80%RH（動作時）、温度 -10～60℃／湿度 20～80%RH（非動作時）です。
- ▶ 結露は、空気中の水分が水滴になる現象です。温度の低い場所（クーラーの効いた場所、寒い屋外など）から、温度の高い場所（暖かい室内、炎天下の屋外など）へ移動した時に起こります。結露が発生すると故障の原因となりますので、ご注意ください。
- ▶ 本製品のそばで喫煙すると、タバコのヤニや煙がワークステーション本体の内部に入り、CPU ファンなどの機能を低下させる可能性がありますので、ご注意ください。

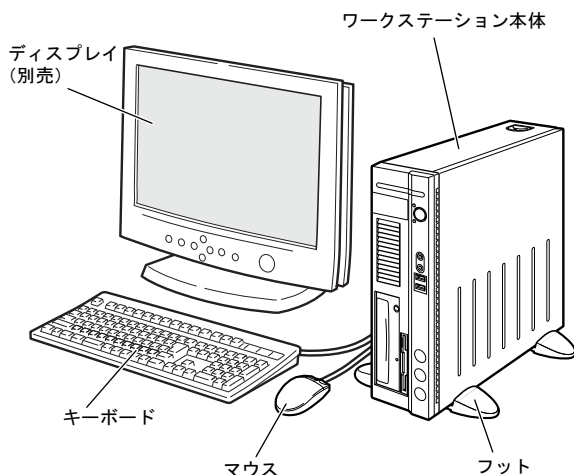
## 設置例

本ワークステーションは次のように設置してください。  
ワークステーション本体は次の図のように縦置き、または横置きにすることができます。設置の際は、ワークステーション本体の通風孔をふさがないように注意してください。

### POINT

- ▶ ワークステーション本体は、壁などから 10cm 以上離して設置してください。

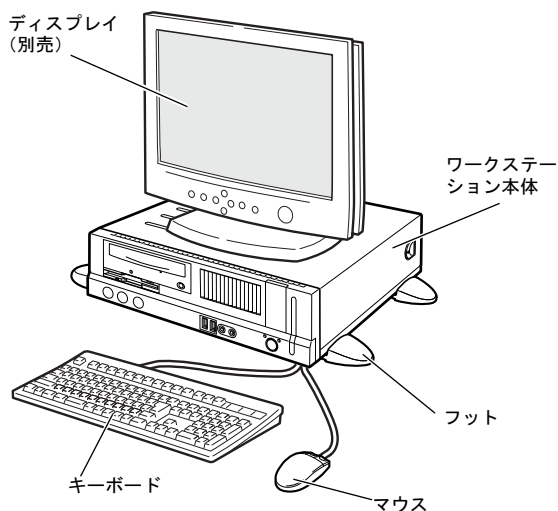
### ■縦置き



本ワークステーションを壁などに接して縦置きにする場合、壁などに接していない片側だけフットを取り付けます。

### ■横置き

19kg 以下のディスプレイのみワークステーション本体の上に載せることができます。

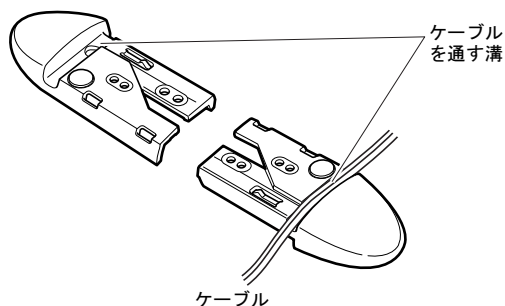


フットの代わりにゴム足を取り付けることもできます。詳細については、「横置きに設置する」(→ P.16) をご覧ください。

## 縦置きに設置する

### POINT

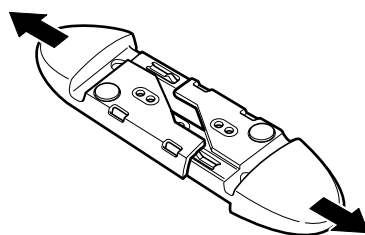
- ▶ キーボードやマウスのケーブルを、フットの溝に通してまとめることができます。その場合は、フットを取り付けるときに、あらかじめフットの溝にケーブルを通しておいてください。



### ■フットを2つ使う場合 (ダブル)

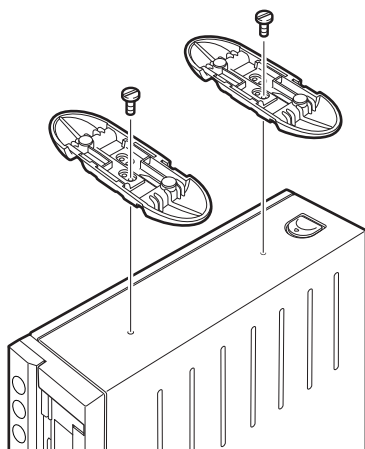
本ワークステーションを壁などに接しない縦置きする場合、次の手順で取り付けてください。

- 1 フットを、ワークステーション本体の幅に合わせます。



- 2 ワークステーション本体にフットを取り付けます。

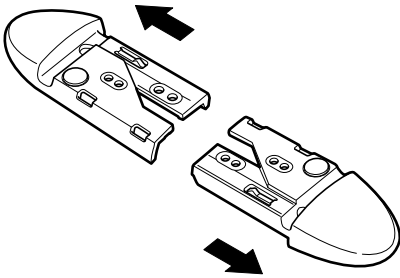
フット背面にあるネジ穴に、ネジで固定します。



## ■フットを1つ使う場合（シングル）

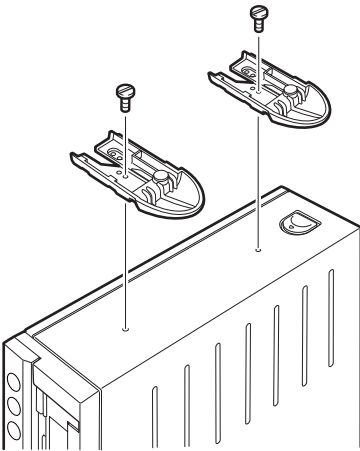
本ワークステーションを壁などに接して縦置きする場合、次の手順で取り付けてください。

### 1 フットを分解します。



### 2 ワークステーション本体に分解したフットを取り付けます。

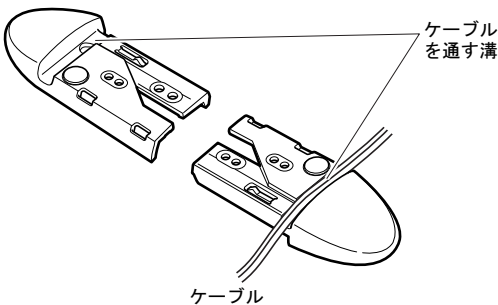
フット背面にあるネジ穴に、ネジで固定します。



## 横置きに設置する

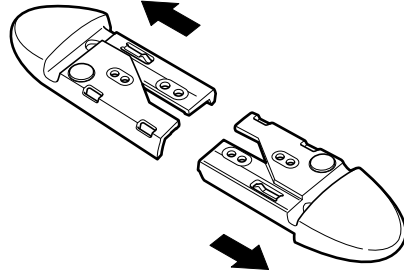
### POINT

- ▶ キーボードやマウスのケーブルを、フットの溝に通してまとめることができます。その場合は、フットを取り付けるときに、あらかじめフットの溝にケーブルを通しておいてください。

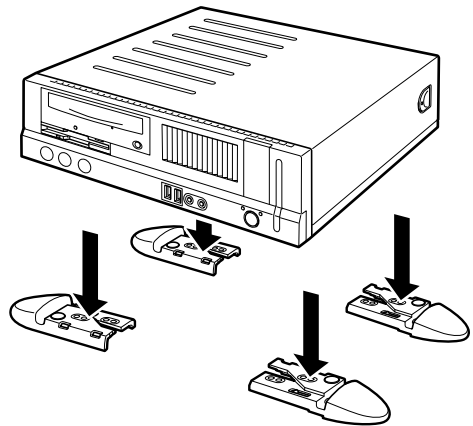


## ■フットを使う場合

### 1 フットを分解します。



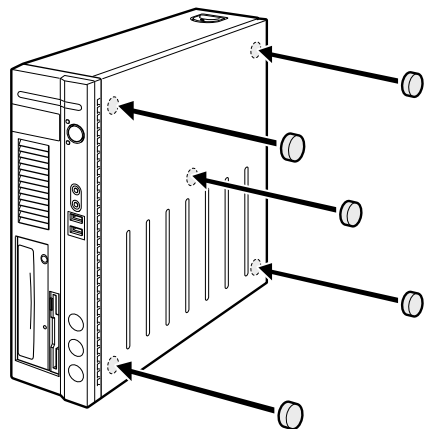
### 2 分解したフットの上にワークステーション本体を載せます。



## ■ゴム足を使う場合

横置きする場合、フットを取り付ける代わりに、ワークステーション本体の4隅と中央に添付のゴム足（5個）を取り付けて設置することもできます。

### 1 ゴム足をワークステーション本体側面に取り付けます。



## POINT

- ▶ ゴム足を取り付ける場合、縦置きするときのフットに接触しない位置に取り付けてください。また、ワークステーション本体のゴム足を取り付ける部分は、ほこりなどをふき取ってください。
- ▶ ゴム足を取り付けた他にワークステーション本体を移動する場合、ゴム足をひきずらないでください。

これ以降の記述については、縦置きを前提としています。横置きにする場合は読み替えてください。

## 接続について

ワークステーション本体に、ディスプレイ、キーボード、電源ケーブルなどを接続します。

### 警告



- ディスプレイ、キーボード、マウス、電源ケーブルの取り付けや取り外しを行うときは、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。  
この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。



- ケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。  
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、ワークステーション本体および周辺機器が故障する原因となります。

### 注意



- 本製品を移動する場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続ケーブルなども外してください。作業は足元に十分注意して行ってください。

電源ケーブルが傷つき、感電・火災の原因となったり、本製品が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

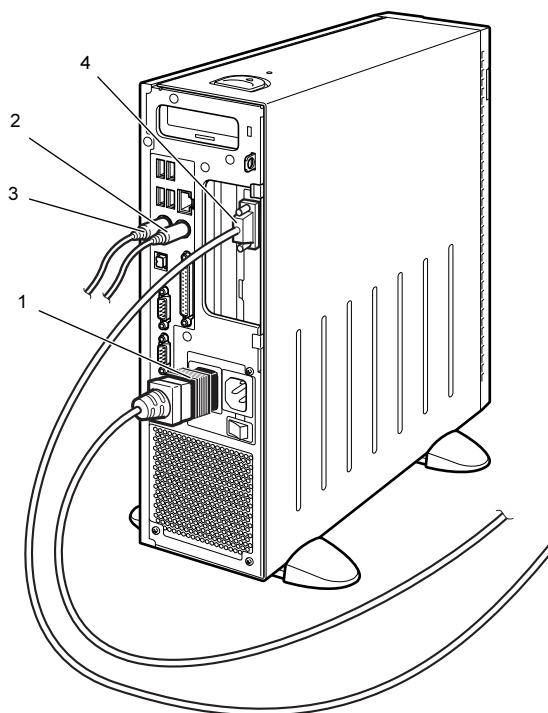


- アウトレットはディスプレイの電源供給専用です。それ以外の用途には使用しないでください。  
火災・故障の原因となることがあります。

## ディスプレイ／キーボード／マウスを接続する

### POINT

- ▶ ここでは、ディスプレイの電源をワークステーション本体からとる場合の接続方法について説明しています。



- 1 電源ケーブルをアウトレットに接続し、もう一方のプラグはディスプレイ背面のインレットに接続します。

ディスプレイの種類によっては電源ケーブルのプラグが、アウトレットの形状と異なり、接続できない場合があります。このときは、添付のコンセント変換コネクタをプラグに取り付けてから、アウトレットに接続してください。

- 2 マウスを接続します。

マウスケーブルのコネクタに刻印されているマークの面を右向きにして、マウスコネクタの色とワークステーション本体背面のマウスコネクタの色が合うように接続します。

### POINT

- ▶ USB マウス（光学式）をお使いになる場合は、ワークステーション本体前面、またはワークステーション本体背面の USB コネクタに接続します。このとき、コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。

### 3 キーボードを接続します。

キーボードケーブルのコネクタに刻印されているマークの面を右向きにして、キーボードコネクタの色とワークステーション本体背面のキーボードコネクタの色が合うように接続します。

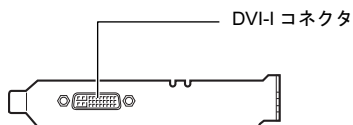
### 4 ディスプレイケーブルをワークステーション本体に接続します。

ケーブルのコネクタを、ワークステーション本体背面のディスプレイコネクタに接続し、ディスプレイケーブルのコネクタのネジを締めます。

#### POINT

- ▶ デジタルディスプレイを接続する場合、最低でも 640 × 480、800 × 600、1024 × 768 のすべての解像度（モード）に対応したデジタルディスプレイをお使いください。  
対応していないデジタルディスプレイでは、正常に表示できません。
- ▶ ワークステーション本体とディスプレイが接続されていない場合、本ワークステーションが正常に起動しないことがあります。本ワークステーションの電源を入れる前に、必ずワークステーション本体とディスプレイがディスプレイケーブルで接続されているか確認してください。また、本ワークステーションの電源を入れた後は、ディスプレイケーブルの取り外しや取り付けを行わないでください。
- ▶ マルチディスプレイで使用する場合は、必ず Windows の初期設定を行ってから、もう 1 本のディスプレイケーブル（DVI-VGA 変換アダプタ経由の接続を含む）を接続してください。
- ▶ マルチディスプレイで使用する場合は、ディスプレイドライバの設定が必要になることがあります。詳しくは、『CELSIUS マニュアル』をご覧ください。

#### ・ RADEON X300 SE の場合（標準）



#### ・ 1 台のディスプレイを接続する場合

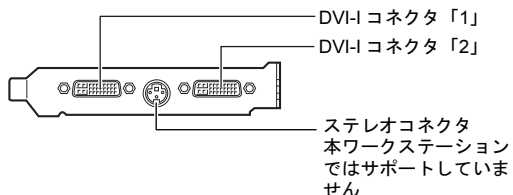
アナログディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタに、添付のマルチモニターケーブルを接続し、マルチモニターケーブルのアナログ RGB コネクタに刻印されている「VGA1」コネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。  
デジタルディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。

- ・ マルチディスプレイ（2 台）で接続する場合  
アナログディスプレイを接続するときは、マルチモニターケーブルのアナログ RGB コネクタに刻印されている「VGA2」コネクタに、もう 1 本のディスプレイケーブルを接続します。  
「VGA1」コネクタに接続されたディスプレイがプライマリディスプレイ、「VGA2」コネクタに接続されたディスプレイがセカンダリディスプレイとなります。

#### POINT

- ▶ マルチディスプレイで使用する場合以外は、「VGA2」コネクタへディスプレイケーブルを接続しないでください。  
本ワークステーションが正常に動作しません。
- ▶ マルチディスプレイで使用する場合は、デジタルディスプレイは使用できません。
- ▶ デュアルリンク対応モニターはお使いになれません。接続しないでください。

#### ・ FireGL V5000 の場合（カスタムメイド）



- ・ 1 台のディスプレイを接続する場合  
アナログディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタ「1」に、添付の DVI-VGA 変換アダプタを接続してからディスプレイケーブルを接続します。  
デジタルディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタ「1」に、ディスプレイケーブルを接続します。
- ・ マルチディスプレイで接続する場合  
アナログディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタ「2」に別売の DVI-VGA 変換アダプタを接続してから、もう 1 本のディスプレイケーブルを接続します。  
デジタルディスプレイを接続するときは、DVI-I コネクタ「2」に、ディスプレイケーブルを接続します。

## POINT

- ▶ マルチディスプレイで使用する場合は、DVI-I コネクタ「2」へディスプレイケーブルを接続しないでください。本ワークステーションが正常に動作しません。
- ▶ デュアルリンク対応モニタはお使いになれません。接続しないでください。

## 電源ケーブルを接続する

### 警告

- 濡れた手でプラグを抜き差ししないでください。  
感電の原因となります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。  
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、感電・火災の原因となります。  
修理は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- 電源コード、電源プラグが傷ついている場合は使用しないでください。  
感電・火災の原因となります。
- AC アダプタや電源プラグはコンセントから定期的に抜いて、コンセントとの接続部分のほこりやゴミを乾いた布でよくふき取ってください。  
ほこりがたまったままの状態で使用すると感電・火災の原因となります。
- 電源プラグは、壁のコンセント（AC100V）に直接かつ確実に接続してください。また、タコ足配線をしないでください。  
感電・火災の原因となります。
- 近くで落雷のおそれがある場合は、ワークステーション本体の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、雷が止むまで取り付けしないでください。  
そのまま使用すると、落雷による感電・火災の原因となります。

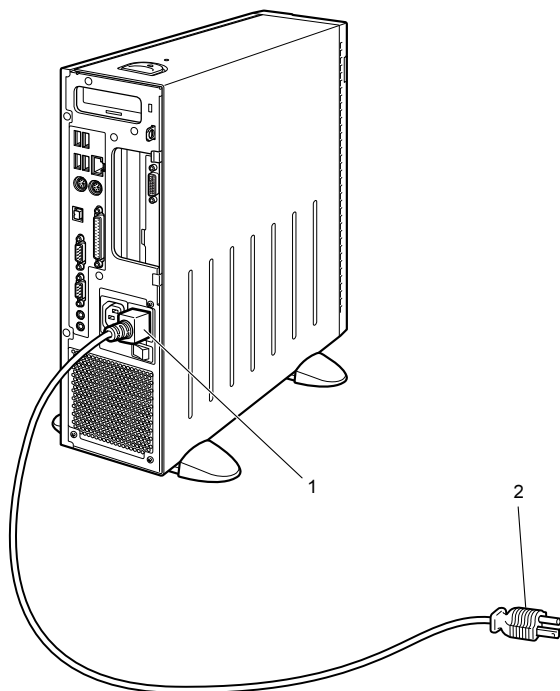


- 電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線をコンセントのアースネジへ接続してください。  
安全のため、電源プラグにはアース線がついています。アース接続しないで使用すると、万一漏電した場合に、感電の原因となります。  
アースネジ付のコンセントが利用できない場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご相談ください。

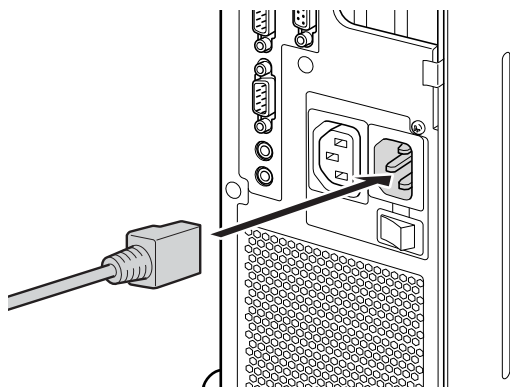
### 注意



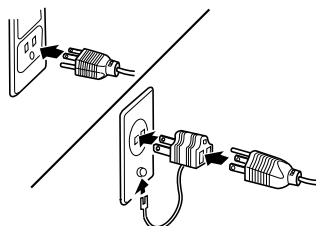
- 電源プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。  
電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、感電・火災の原因となることがあります。
- 電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込み、不完全な接続状態で使用しないでください。  
火災・故障の原因となることがあります。
- 本製品を長期間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。  
火災の原因となることがあります。



- 1 電源ケーブルのプラグをワークステーション本体背面のインレットに接続します。**



- 2 電源ケーブルをコンセント（AC100V）に接続します。**  
片方のプラグを、コンセントに接続します。2ピンのコンセントの場合は、添付の2P変換プラグを取り付けてから、コンセントに接続します。  
2P 変換プラグに付いているアース線を、アース端子のネジにネジ止めします。



## 電源を入れる

### 注意事項

- ご購入後、初めて電源を入れる場合は、周辺機器の取り付けなどを行わないでください。
- 電源ランプは、電源を入れると緑色に点灯します。スタンバイ状態になるとオレンジ色に点灯します。
- ワークステーション本体の電源を入れる前に、必ずディスプレイが接続されていることを確認してください。ディスプレイを接続しないでワークステーション本体の電源を入れると、ディスプレイが認識されず、カーソル、画面が正常に表示されない場合があります。この場合、アナログディスプレイをお使いの方は、アナログディスプレイを接続して OS を終了させてから電源を切り、その後電源を入れ直してください。
- ディスプレイの電源ケーブルを本ワークステーションに接続している場合、ディスプレイの電源は本ワークステーションの電源と連動して入ります。そのため、ディスプレイの電源ボタンは一度押しておけば、以後操作する必要は

ありません。

次回からはワークステーション本体の電源ボタンを押すだけで電源が入ります。ただし、ディスプレイ以外の機器は、あらかじめ電源を入れておく必要があります。

- 本ワークステーションの電源とディスプレイの電源を連動させない場合は、本ワークステーションの電源を入れる前に、ディスプレイの電源を必ず入れてください。  
特にデジタルディスプレイをお使いになる場合、ワークステーション本体の電源を入れる前に、必ずデジタルディスプレイの電源が入っていることを確認してください。ワークステーション本体の電源を入れた後にデジタルディスプレイの電源を入れた場合、画面が表示されません。この場合、ワークステーション本体の電源を切り、その後に電源を入れ直してください。
- 画面が中央に表示されない場合は、ディスプレイにあった周波数が設定されているか確認してください。それでも中央に表示されない場合は、ディスプレイ側で調整してください。
- 電源を入れた後すぐに電源を切る場合は、OS が起動してから「電源を切る」（→ P.24）に従って電源を切ってください。
- 電源を切った後すぐに電源を入れる場合は、10 秒以上時間をあけてください。
- 画面表示の開始や表示モードが切り替わる時、一時的に画面が乱れたり、横線が見えることがあります（Windows の起動・終了画面、省電力モードからの復帰時など）。故障ではありませんので、そのままお使いください。
- 電源を入れた後、ディスプレイに「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、本ワークステーションは、ワークステーション内部をチェックする「自己診断（POST：Power On Self Test）」を行います。自己診断（POST）中は電源を切らないでください。自己診断（POST）の結果、異常があればエラーメッセージが表示されます（→ P.25）。
- マルチディスプレイをお使いの場合、電源を入れたときの「FUJITSU」ロゴは次のように表示されます。

| グラフィックスカード     | 「FUJITSU」ロゴの表示                                                                                                      |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| RADEON X300 SE | マルチモニターケーブルのアナログ RGB コネクタ「VGA1」と「VGA2」に接続したディスプレイの両方で表示                                                             |
| FireGL V5000   | アナログディスプレイを2台接続した場合、またはアナログディスプレイとデジタルディスプレイを接続した場合、両方のディスプレイで表示<br>デジタルディスプレイを2台接続した場合、DVI-I コネクタ「1」に接続したディスプレイで表示 |

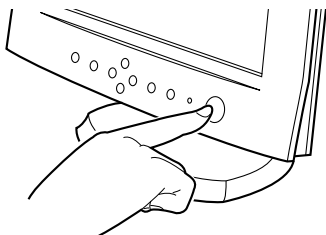
- 周辺機器の取り付けなどのとき、本体カバーを取り外したまま電源を入れないでください。
- 画面に何も表示されないときは、次のことを確認してください。
  - ・ ワークステーション本体背面のメインスイッチは「|」になっていますか。
  - ・ ディスプレイの電源が入っていますか。
  - ・ 省電力モードが設定されていませんか。  
マウスを動かすか、どれかキーボードのキーを押してください。電源ランプがオレンジ色に点灯している場合、ACPI モードのスタンバイ状態に移行している可能性があります。電源ボタンを押してください。電源ボタンを押してから 30 秒以上たっても画面に何も表示されない場合、電源ボタンを 4 秒以上押し続け、電源を一度切ってください。
  - ・ ディスプレイのケーブルは、正しく接続されていますか（→ P.17）。
  - ・ ディスプレイの電源ケーブルは、アウトレットに接続されていますか（→ P.17）。
  - ・ ディスプレイのブライトネス/コントラストボリュームは、正しく調節されていますか。ブライトネス/コントラストボリュームで画面を調節してください。

## 電源の入れ方

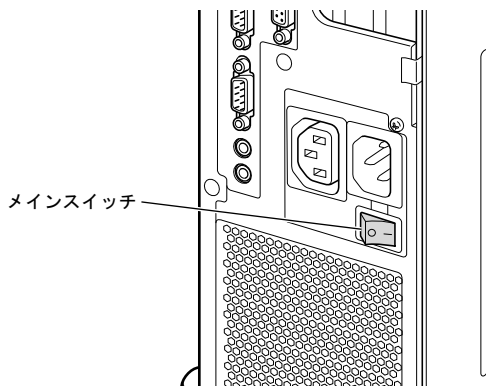
### ⚠ 注意

- ⊘ ● 電源を入れた状態で持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。  
故障の原因となります。
- ⊘ ● 冬季など本製品が冷えきっているときは、温度を急激に上げないようにして本製品が十分暖まってから電源を入れてください。  
本製品内部に水滴がつき、故障の原因となることがあります。

- 1 ディスプレイなどの周辺機器の電源ボタンを押します。  
この時点では、画面に何も表示されません。



- 2 ワークステーション本体背面のメインスイッチを「|」側に切り換えます。



### POINT

- ▶ 一度「|」側に切り換えたら、本ワークステーションを起動するたびに切り替える必要はありません。

- 3 ワークステーション本体の電源ボタンを押します。

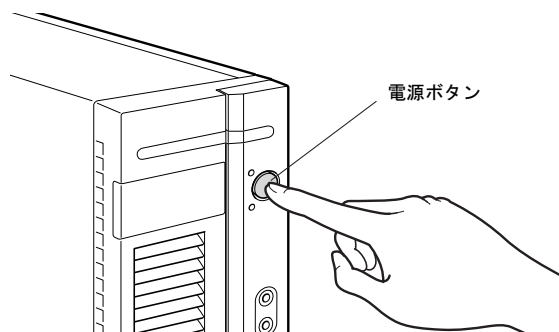
ディスプレイとワークステーション本体の電源ランプが緑色に点灯します。

電源が入ると、ディスプレイに「FUJITSU」ロゴが表示され、その後システムが起動します（「FUJITSU」のロゴが表示されている間に自己診断（POST）が行われています）。

ご購入後、初めて電源を入れると、Windows のセットアップ画面が表示されます。その場合は、「セットアップ」（→ P.22）をご覧ください。

### POINT

- ▶ ディスプレイの種類によっては、画面表示が遅く「FUJITSU」のロゴの表示が確認できないことがあります。



## セットアップ

初めて電源を入れた後に行うWindowsの初期設定(Windows セットアップ)について説明します。必ず、本書の手順に従って操作してください。

次の「留意事項」をよくお読みになり、電源を入れて Windows セットアップを始めます。

### 留意事項

- Windows セットアップを行う前は、次の点にご注意ください。
  - ・ 周辺機器(カスタムメイドオプションを除く)を取り付けないでください。
  - ・ LAN ケーブルを接続しないでください。
  - ・ オプションカードをセットしないでください。
  - ・ BIOS をご購入時の設定から変更しないでください。
- Windows セットアップが正常に行われなかったり、エラーメッセージが表示される場合があります。  
上記の項目は、セットアップを行い、「必ず実行してください」を実行してから、行うようにしてください。
- Windows セットアップの各ウィンドウが完全に表示されないうちにキーを押すと、Windows セットアップが完全に行われない場合があります。ウィンドウが完全に表示されたから、キーまたはマウスで操作してください。
- セットアップ中は、不用意に電源を切らないでください。
- マルチディスプレイで使用する場合、必ず Windows のセットアップを行ってから、もう一方のディスプレイケーブル(DVI-VGA 変換アダプタ経由の接続含む)を接続してください。
- Windows セットアップが進められなくなったときは、「セットアップで困ったときは」(→ P.24)をご覧ください。

### Windows XP セットアップ

- 1 本ワークステーションの電源を入れます(→ P.20)。しばらくすると、「Microsoft Windows へようこそ」が表示されます。
- 2 「次へ」をクリックします。  
「使用許諾契約」が表示されます。  
「使用許諾契約書」は、本ワークステーションにあらかじめインストールされているWindowsを使用するうえでの契約を記述したものです。
- 3 「使用許諾契約書」をよく読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。  
「コンピュータを保護してください」と表示されます。

### POINT

- ▶ 「同意しません」を選択した場合は、「次へ」をクリックした後、メッセージに従って操作してください。

- 4 「自動更新を有効にし、コンピュータの保護に役立てます」をクリックし、「次へ」をクリックします。  
「コンピュータに名前を付けてください」と表示されます。
- 5 「このコンピュータの名前」と「コンピュータの説明」を入力し、「次へ」をクリックします。  
「管理者パスワードを設定してください」と表示されます。

### POINT

- ▶ 「コンピュータの説明」は省略できます。  
また、コンピュータの名前や説明は、セットアップ終了後にあらためて設定することもできます。

- 6 「管理者パスワード」と「パスワードの確認入力」にパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。  
「このコンピュータをドメインに参加させますか?」と表示されます。

### POINT

- ▶ パスワードでは大文字/小文字が区別されます。
- ▶ 「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか?」と表示された場合は、手順9へ進んでください。
- ▶ 「設定が完了されました」と表示された場合は、手順10へ進んでください。

- 7 「いいえ...」をクリックし、「次へ」をクリックします。  
「インターネット接続を確認しています」と表示されます。しばらくすると、「インターネットに接続する方法を指定してください。」と表示されます。

### POINT

- ▶ 「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか?」と表示された場合は、手順9へ進んでください。

- 8 「省略」をクリックします。  
「Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか?」が表示されます。
- 9 「いいえ、今回はユーザー登録しません」をクリックし、「次へ」をクリックします。  
「設定が完了しました」と表示されます。
- 10 「完了」をクリックします。

本ワークステーションの再起動後、パスワードの入力画面が表示されます。

- 11** 手順6で入力したパスワードを入力し、「→」をクリックします。

■ ご購入時のセットアップの場合

手順14に進んでください。

■ リカバリ後のセットアップの場合

次の手順に進んでください。

- 12** お使いのグラフィックスカードのドライバをインストールします。

添付の「ドライバズディスク」をセットすると、「ドライバズディスク検索」ツールが起動します。お使いのグラフィックスカードのドライバフォルダを検索し、フォルダ内の「Install.txt」に従って、グラフィックスドライバをインストールしてください。

グラフィックスドライバのインストール完了後、次の手順に進んでください。

 **POINT**

- ▶ グラフィックスドライバのインストール前に「新しいハードウェアの検出ウィザード」ウィンドウが表示される場合があります。この場合は「キャンセル」をクリックしてください。

- 13** ログオンします。

 **POINT**

- ▶ 画面下の通知領域に警告が表示されたら、「必ず実行してください」を実行後、ウイルス対策ソフトをインストールし、ウイルス対策を最新の状態にしてください。

- 14** 「スタート」メニューの「必ず実行してください」をクリックします。

「このワークステーションに最適な設定を行います」ウィンドウが表示されます。

 **重要**

- ▶ 「必ず実行してください」を行わないと、セットアップの最終設定が行われません。必ず手順どおりに実行してください。

- 15** 「実行する」をクリックします。

最終設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

 **重要**

- ▶ 最終設定を正しく行うために、必ず「実行する」をクリックしてください。

- 16** 「OK」をクリックします。

本ワークステーションが再起動します。

 **重要**

- ▶ 「復元ポイントの作成」を行う場合は、「必ず実行してください」を実行後、再起動してから行ってください。

これで、Windows セットアップが完了しました。

この後は、「セットアップ後」(→ P.23) をご覧になり、必要な操作を行ってください。

## セットアップ後

セットアップが終わったら、ワークステーションを使い始める前に、次の操作を行ってください。

● セキュリティ対策

ウイルス対策や不正アクセスに関する対策など、お使いのワークステーションについてのセキュリティ対策は、システム管理者の指示に従い、お客様自身が責任をもって行ってください。

初めてインターネットに接続する際は、LAN などに接続してインターネットを始める前に、次のセキュリティ対策を行ってください。

1. ネットワーク管理者に確認し、LANなどの設定を行います。
2. 「Windows Update」を実行し、Windows をより安全な状態に更新します。  
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Windows Update」をクリックし、必要な更新をインストールします。
3. ウイルス対策ソフトをインストールし、ウイルス対策のデータファイルを最新にします。ウイルス対策ソフト「AntiVirus」については、『CELSIUS マニュアル』の「トラブルシューティング」－「トラブルに備えて」－「コンピュータウイルス対策」をご覧ください。  
実行にあたっては、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

なお、『CELSIUS マニュアル』をご覧になるためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。ネットワーク管理者に確認し、LAN などの設定を行ってください。

また、必要に応じて、次の操作を行ってください。

- ハイパー・スレッディング・テクノロジー機能をお使いになります。詳しくは、『CELSIUS マニュアル』の「機能」－「セットアップ後」をご覧ください。

- 必要に応じて、ソフトウェアの追加や削除を行うことができます。ソフトウェアについては、『CELSIUS マニュアル』の「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」をご覧ください。  
その他の設定については『CELSIUS マニュアル』をご覧ください。

## セットアップで困ったときは

セットアップ中に動かなくなった、など困ったことがあったときには、次の項目をご覧ください。

### □電源を入れても画面が表示されない

- 電源を切り、ディスプレイなどの接続を確認してください。

### □Windows セットアップが進められなくなった

- 「電源を切る」(→ P.24) をご覧になり、本ワークステーションの電源を一度切った後でセットアップをやり直してください。
- 途中で電源を切ると、次に電源を入れたときに再起動を繰り返したり、「システムのインストールが完全ではありません」などのメッセージが常時され、Windowsが起動しなくなることがあります。  
この場合は、「FUJITSU」ロゴが表示されているときか、またはメッセージが表示されているときに、電源ボタンを4秒以上押し続けて強制的に電源をきり、リカバリ操作を行ってください。

### □電源を入れた後、画面が中央に表示されない、画面が見にくい

- 設定機能があるディスプレイをお使いの場合は、ディスプレイのマニュアルをご覧になり調整してください。

### □起動時などの音がうるさい

- Windows セットアップ時に音が鳴ります。スピーカーを接続している場合は、ボリュームを調整してください。

### □「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示される

- お使いのモニタに合わせたドライバをインストールしてください。

## 電源を切る

### 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し、データを保存してください。
- 電源を切る前に、フロッピーディスクやハードディスクのアクセスランプ (→ 『CELSIUS マニュアル』) が消えていることを確認してください。点滅中に電源を切ると、作業中のデータが保存できなかったり、フロッピーディスクやハードディスク内部のデータが破壊されたりする可能性があります。
- 電源が入っている状態で、電源プラグをコンセントから抜いたり、停電によって電源が切断された場合は、再び電源プラグをコンセントに差し込むか、復電してから電源ボタンを押してください。ただし、BIOSセットアップの「Power」－「AC Power Recovery」(→ 『CELSIUS マニュアル』) が「Power On」または「Last State」に設定されている場合、電源ボタンを押す必要はありません。復電すると自動的に電源が入り、本

ワークステーションが起動します。

- 自己診断 (POST) 時に電源を切らないでください。OS が完全に起動してから、「電源の切り方」の手順 (→ P.24) で切ってください。
- 電源を切った後すぐに電源を入れる場合は、10 秒間ほど間隔をあけてから行ってください。
- 「電源の切り方」の手順 (→ P.24) で電源が切れない場合や再起動できない場合、4秒以上電源ボタンを押し続けて、電源を切ってください。ただし、電源ボタンを4秒以上押し続けて電源を切ると、ハードディスクを破壊するおそれがあります。緊急の場合以外は行わないでください。
- 電源を完全に切断するには、ワークステーション本体背面のメインスイッチを「○」側に切り替えるか電源プラグをコンセントから抜いてください (電源ボタンを使用してもワークステーション本体の電源は完全には切断されません)。

## 電源の切り方

「スタート」ボタン→「終了オプション」→「電源を切る」の順にクリックします。

OS が終了し、本ワークステーションの電源が切れます。



### POINT

- ▶ 上記操作で電源が切れない場合、次の手順で電源を切ってください。
  1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
  2. 「シャットダウン」→「コンピュータの電源を切る」の順にクリックします。
- ▶ 上記の画面で「再起動」を選択すると、本ワークステーションを再起動することができます。ソフトウェアをインストールした場合や、使用中のソフトウェアがなんらかの理由で動かなくなった場合などに、再起動を行います。再起動すると、メモリ内のデータが消失します。再起動する前に、必要なデータは保存してください。

## 2. 必要に応じてお読みください

### BIOS の設定をご購入時の状態に戻す

BIOS セットアップの設定値を、本ワークステーションご購入時の状態（標準設定値）に戻す方法について説明します。

本ワークステーションを起動し、「FUJITSU」ロゴが表示されている間に【F2】キーを押すと、BIOS セットアップが起動します。BIOS の設定値をご購入時の設定に戻すには、「Exit」メニューの「Load Setup Default」を実行した後、設定を保存して BIOS セットアップを終了してください。

#### POINT

- ▶ BIOS の設定を変更している場合は、ご購入時の状態に戻す前に、変更内容をメモしておくことをお勧めします。
- ▶ ディスプレイの種類によっては画面の表示が遅く、「FUJITSU」ロゴが確認できない場合があります。その場合は、キーボードのインジケータが一瞬点灯した後、【F2】キーを数回押してください。

## エラーについて

### エラーメッセージ

本ワークステーション起動時にエラーメッセージが表示された場合は、エラーメッセージを確認し、次の処置を行ってください。

#### ●BIOS セットアップを起動する

BIOS に関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップを再起動して設定値を確認してください。

#### ●周辺機器の取り付けを確認する

オプションの拡張カードなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、カードの割り込みレベルなど正しく設定されているかどうか確認してください。このとき、拡張カードに添付のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合は、それらのマニュアルもあわせてご覧ください。

上記の処置を実施しても、まだエラーメッセージが発生する場合は、本ワークステーションが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へ連絡してください。

次に、エラーメッセージを示します。

#### ●Press <F2> to Enter Setup and check the error.

起動時の自己診断テスト（POST）中にエラーが発生すると本メッセージが表示されます。【F2】キーを押すと BIOS セットアップを起動します。

- Hardware Errors have been detected at previous runtime.  
Enter BIOS setup, then confirm BIOS Event log for detail.  
OS 起動後にエラーが発生した場合、次回起動時に本メッセージが表示されます。  
BIOS イベントログを確認して処置してください。
- Event Log area is full. No more events will be logged.  
To clear event logs, please enter BIOS setup.  
BIOS イベントログがいっぱいになった場合、次回起動時に本メッセージが表示されます。  
BIOS イベントログを確認して処置した後に、BIOS イベントログをクリアしてください。
- System CMOS Checksum bad - Default configuration used  
CMOS チェックサムが間違っています。すべての BIOS 設定項目が標準設定値に変更されました。  
BIOS 設定を保存して BIOS セットアップを終了してください。  
BIOS 設定を標準設定値から変更している場合は設定変更後、設定した内容を保存して BIOS セットアップを終了してください。
- Keyboard Error  
キーボードテストでエラーが発生しました。  
電源を切って、キーボードが正しく接続されているか確認し、10 秒以上待ってから電源を入れ直してください。
- Floppy Drive A Error  
フロッピーディスクドライブテストでエラーが発生しました。  
電源を切って、フロッピーディスクドライブが正しく取り付けられているか、確認してください。
- Security Chip not found  
セキュリティチップが正常に認識されていません。  
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- Security Chip MPD function execution error  
セキュリティチップのテスト中にエラーが発生しました。  
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- Security Chip MPD function error  
セキュリティチップのテスト中にエラーが発生しました。  
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- Security Chip initialization error  
セキュリティチップのテスト中にエラーが発生しました。  
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- nnn FAN Error  
POST 時の FAN 確認時にエラーが発生しました。  
電源を切って、FAN が壊れていないことまたは FAN のケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

● **nnn Voltage Error**

POST 時の電圧確認時にエラーが発生しました。

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● **The system chassis was opened**

本体カバーが取り外されました。

本体カバーが取り付けられていることを確認後、BIOS 設定を保存して BIOS セットアップを終了してください。

● **Non-ECC DIMM detected**

サポート外のメモリが取り付けられています。

弊社純正品のメモリが取り付けられているかを確認してください。

● **PCI System error B:nn D:nn F:nn**

PCI デバイスでシステムエラー (SERR) が発生しました。

電源を切って、PCI カードが正しく取り付けられているか確認してください。

● **PCI Parity error B:nn D:nn F:nn**

PCI デバイスでパリティエラー (PERR) が発生しました。

電源を切って、PCI カードが正しく取り付けられているか確認してください。

● **Password locked: Fixed Disk n**

ハードディスクのセキュリティ機能が有効のままになっているため、ハードディスクが使えません。

ハードディスクのセキュリティ機能の設定を確認してください。

● **PXE-E61:Media test failure, Check cable**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。

● **PXE-E53:No boot filename received**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「PXE Boot to LAN」を「Disabled」に設定してください。

● **PXE-E78:Could not locate boot server**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「PXE Boot to LAN」を「Disabled」に設定してください。

● **PXE-E51:No DHCP or proxyDHCP offers were received**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「PXE Boot to LAN」を「Disabled」に設定してください。

● **PXE-T01:File not found + PXE-E3B:TFTP Error - File Not found**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートファイルイメージが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「PXE Boot to LAN」を「Disabled」に設定してください。

● **PXE-T01:File not found**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「PXE Boot to LAN」を「Disabled」に設定してください。

● **PXE-E89:Could not download boot image**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「PXE Boot to LAN」を「Disabled」に設定してください。

● **PXE-E32:TFTP open timeout**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「PXE Boot to LAN」を「Disabled」に設定してください。

● **BOOT: Couldn't find NTLDR**

Please insert another disk

フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れると、表示されます。フロッピーディスクを取り出して何かキーを押してください。

● **Invalid system disk**

Replace the disk, and then press any key

フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れると、表示されます。フロッピーディスクを取り出して何かキーを押してください。

● **Non - System disk or disk error**

Replace and press any key to ready

フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れると、表示されます。フロッピーディスクを取り出して何かキーを押してください。

● **NTLDR is missing**

Press any key to restart

フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れると、表示されます。フロッピーディスクを取り出して何かキーを押してください。

## ● Remove disks or other media

Press any key to restart

フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れると、表示されます。フロッピーディスクを取り出して何かキーを押してください。

### POINT

- ▶ 本書に記載されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

## ビープ音をともなうエラー

本ワークステーション起動時にビープ音が鳴った場合は、ビープ音の回数の組み合わせを確認し、対処してください。対処した後もまだビープ音が鳴る場合は、本ワークステーションが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へ連絡してください。

### POINT

- ▶ ビープ音によるエラー通知は、「ピッ」、「ピッピッ」、「ピッピッ」、「ピッピッピッ」のように、1 回または連続したビープ音の組み合わせにより行われます。ここではビープ音の回数の組み合わせを、「1-2-2-3」のように表記しています。
- ▶ 次の表の組み合わせ以外の鳴り方をした場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

| ビープ音の回数 | 原因と対処方法                                                                                                                   |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1-2     | ビデオカードの初期化（認識）に失敗しました。<br>ビデオカードが正しく取り付けられているか確認してください。<br>正しく取り付けられていても同じビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元に連絡してください。 |
| 1-3-3-1 | メモリにエラーが発生しました。<br>メモリが正しく取り付けられているか確認してください。正しく取り付けられていても同じビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。                |

## リカバリ概要

Windows が起動しないなどの問題が発生した場合、ハードディスクの領域を変更したい場合は、リカバリを行います。

## リカバリの概要と手順

### ■概要

リカバリとは、「リカバリディスク」を使用して、OS、ドライバなどのプレインストールソフトウェアをご購入時の状態（Windows セットアップを行う前の状態）に戻す操作です。

「リカバリディスク」では、次の方法でリカバリを実行できます。

- C ドライブのみご購入時の状態に戻す（推奨）

ハードディスクの領域は現在お使いの状態のまま、C ドライブのみご購入時の状態に戻します。D ドライブ以降は、変更されません。

この方法でリカバリを行うと、C ドライブのデータはすべて失われます。あらかじめ必要なデータはバックアップしておいてください。

- 領域を設定した後、C ドライブをご購入時の状態に戻す  
ハードディスクの領域を設定した後、C ドライブの内容をご購入時の状態に戻します。D ドライブはフォーマットされます。

この方法でリカバリを行うと、ハードディスク内のデータはすべて失われます。あらかじめ必要なデータはバックアップしておいてください。

領域の設定には、次の方法があります。

- ・ 領域を任意に設定して戻す  
領域を任意に設定した後、C ドライブの内容をご購入時の状態に戻し、D ドライブをフォーマットします。  
領域は、100MB 単位で 2 区画まで作成できます。
- ・ 領域をご購入時の設定にして戻す  
ハードディスクの領域と C ドライブの内容をご購入時の状態に戻し、D ドライブをフォーマットします。

### ■手順

リカバリは次の手順で行います。

- 1 リカバリ前の準備（→ P.28）
- 2 リカバリ方法（→ P.28）
- 3 リカバリ終了後（→ P.29）

## 留意事項

- リカバリを行うと、Cドライブのデータはすべて失われます。また、「領域を設定した後、Cドライブをご購入時の状態に戻す」を選択した場合は、Dドライブ以降のデータもすべて失われます。必要に応じて事前にバックアップしておいてください。
- 「Cドライブのみご購入時の状態に戻す(推奨)」を選択した場合は、Cドライブ以外のドライブは変更されません。
- 周辺機器を取り付けている場合は、それらを一度取り外し、ご購入時の状態に戻してください。
- リカバリを終えてセットアップが終了するまで、LAN ケーブルを接続しないでください。LAN ケーブルを接続してセットアップを行うと、エラーメッセージが表示されることがあります。
- リカバリを行った場合、Windows セットアップの際にグラフィックスドライバをインストールする必要があります。添付の「ドライバズディスク」をセットすると、「ドライバズディスク検索」ツールが起動します。お使いのグラフィックスカードのドライバフォルダを検索し、フォルダ内の「Install.txt」に従って、グラフィックスドライバをインストールしてください。リカバリを行う前に、「Install.txt」を印刷することをお勧めします。
- リカバリでは、ご購入後にインストールしたアプリケーションはインストールされません。再度インストールしてください。
- 領域設定できる最大容量はお使いになるハードディスクにより若干異なります。
- リカバリには時間がかかります。時間に余裕を持って、操作を実行してください。
- Windows 起動中に「リカバリディスク」をセットすると、「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されます。「キャンセル」をクリックしてください。

## リカバリ操作

本ワークステーションのCドライブをご購入時の状態に戻す「リカバリ」の方法を説明します。

### POINT

- ▶ リカバリに関する留意事項 (→ P.28) をよくお読みの上、リカバリを行ってください。

## リカバリ前の準備

リカバリを実行する前に、次の操作を行ってください。

### ■BIOS 設定について

BIOS の設定をご購入時の状態に戻します (→ P.25)。

### POINT

- ▶ BIOS セットアップの設定をご購入時と異なる設定にしていると、インストール時にエラーメッセージが表示されることがあります。

## リカバリ方法

次のものを用意してください。

- 「リカバリディスク 1、2、3、4」

- 1 本ワークステーションを起動します。
- 2 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。  
メニューが表示されます。

### POINT

- ▶ ディスプレイの種類によっては画面の表示が遅く、「FUJITSU」ロゴや Windows の起動時のロゴの表示が確認できない場合があります。  
その場合は、キーボードのインジケータが一瞬点灯した後、【F12】キーを数回押してください。
- ▶ メニューが表示されない場合は、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して本ワークステーションを再起動し、もう一度操作してください。

- 3 「リカバリディスク 1」をセットします。
- 4 「CD/DVD」を選択し、【Enter】キーを押します。  
「リカバリメニュー」画面が表示されます。
- 5 「リカバリ」を選択し、【Enter】キーを押します。  
「リカバリディスク」画面が表示されます。
- 6 【Page Up】【Page Down】キーで説明をスクロールし、内容を確認して、【Y】キーを押します。
- 7 リカバリ方法により、次のどちらかの操作を行います。
  - 「Cドライブのみご購入時の状態に戻す(推奨)」を選択し、【Enter】キーを押します。  
確認の画面が表示されます。手順 9 に進んでください。

### 重要

- ▶ Cドライブのデータはすべて失われます。あらかじめ必要なデータはバックアップしておいてください。
- 「領域を設定した後、Cドライブをご購入時の状態に戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。  
次のメニューが表示されます。次の手順に進んでください。

## 重要

- ▶ ハードディスク内のデータはすべて失われます。あらかじめ必要なデータはバックアップしておいてください。

### 8 領域の設定方法により、次のどちらかの操作を行います。

#### ■「領域を任意に設定して戻す」を選択し、【Enter】

キーを押します。

Cドライブの容量を任意に設定してください。【←】

【→】キーを押すと、100MB単位で、2区画までの領域を設定できます。

ハードディスク全体をCドライブとして設定したい

場合は、【P】キーを押します。

領域を設定したら、【Enter】キーを押します。

#### ■「領域をご購入時の設定にして戻す」を選択し、

【Enter】キーを押します。

ハードディスク内の領域が、ご購入時の設定となります。

## 重要

- ▶ 現在の領域設定を変更しない場合や、ご購入時から領域の設定を変更していない場合も、ハードディスク内のすべてのデータが失われます。

### 9 【Y】キーを押します。

しばらくすると「復元しています...」というメッセージが表示され、ファイルのコピーが始まります。

「n枚目のメディアをドライブZ:に入れてください。」

と表示されたら、「リカバリディスク n」をセットし、しばらくしてから【Y】キーを押します。「リカバリディスク」は、画面に表示されたものを、セットしてください。

リカバリが終了すると「正常にソフトウェアの復元作業が行われました。」と表示されます。

### 10 CD-ROMを取り出してから、本ワークステーションの電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ります。

### 11 以降、「リカバリ終了後」(→ P.29)を参照して操作を行ってください。

## リカバリ終了後

本ワークステーションの電源を切った後、次の操作を行ってください。

- 1 周辺機器が取り付けられている場合は、すべて取り外します(カスタムメイドオプションを除く)。
- 2 本ワークステーションの電源を入れます。
- 3 以降、「セットアップ」(→ P.22)を参照してWindowsのセットアップを行ってください。

以上でリカバリ操作は終了です。

お客様が実行したセキュリティ対策や各種設定内容は、実行前の状態に戻っています。セットアップ後、Windows Updateなどのセキュリティ対策を行ってください。また、必要に応じて、カスタムメイドオプションのインストールや設定などを行ってください。詳しくは、「セットアップ後」(→ P.23)をご覧ください。

# お問い合わせ先

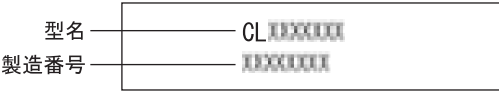
## ■お問い合わせの前に

あらかじめ次の項目について確認してください。

## ■品名／型名／カスタムメイド型番の確認

ワークステーション本体のラベルに記載されています。

### ●正面に貼付



### ●側面に貼付



(イラストは状況により異なります)

## □リカバリディスクの用意

本ワークステーションの修理を依頼する場合は、必ずリカバリディスクを添付してください。

## □本ワークステーションの施錠について（カスタムメイドで本体カバーキーを選択している場合）

ワークステーション本体を施錠している場合は、本ワークステーションの修理を依頼する前に、あらかじめ解錠してください。

## 重要

- ▶ 施錠する場合は、お客様の責任で、本体カバーキーを紛失しないようにしてください。
- ▶ 本体カバーキーを紛失した場合は、引取修理による本体カバーの交換が必要となります。「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。  
なお、保証期間にかかわらず、鍵の紛失による本体カバーの交換は有償となります。
- ▶ 本体カバーキーを紛失した場合は、訪問修理の際も即日修理ができません。  
引取修理になりますので、あらかじめご了承ください。

## ■連絡先

次の連絡先へお問い合わせください。

| こんなときには          | こちらへ                                                                                                                                                                                  |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 添付品の不備           | ご購入元にご相談ください。                                                                                                                                                                         |
| 故障かなと思われたとき      | 『CELSIUSマニュアル』の「トラブルシューティング」をご覧ください。<br><br>それでも解決できない場合は、ご購入元にご相談いただくか、「富士通ハードウェア修理相談センター」にお問い合わせください。<br>〈お問い合わせ先〉<br>フリーダイヤル：0120-422-297<br>受付時間：9:00～17:00<br>(土曜・日曜・祝日・年末年始を除く) |
| 添付のソフトウェアのお問い合わせ | 『CELSIUSマニュアル』の「トラブルシューティング」－「お問い合わせ先」をご覧ください。                                                                                                                                        |
| 技術的なご質問・ご相談      | 『CELSIUSマニュアル』をご覧ください。<br><br>それでも不明な点がございましたら、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」にお問い合わせください。<br>〈お問い合わせ先〉<br>フリーダイヤル：0120-950-222<br>受付時間：9:00～17:00<br>(土曜・日曜・祝日およびシステムメンテナンス日を除く)            |

- ・ おかけ間違いのないよう、ご注意ください。
- ・ 両窓口ともダイヤル後、音声ガイダンスに従い、ボタン操作を行ってください。お客様の相談内容によって、各窓口へご案内いたします。

## リサイクルについて

### ■本製品の廃棄について

本製品（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

### ●法人・企業のお客様へ

本製品の廃棄については、弊社ホームページ「IT 製品の処分・リサイクル」(<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html>) をご覧ください。

### ●個人のお客様へ

本製品を廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

---

CELSIUS J340

取扱説明書  
B6FH-6561-01-01

発行日 2005 年 8 月  
発行責任 富士通株式会社

---

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。



本製品はJEITA「PCグリーンラベル制度」の  
審査基準(2004年度版)を満たしています。  
詳細は、Webサイト <http://www.jeita.or.jp>  
をご覧ください。



\* B 6 F H 6 5 6 1 0 1 \*